

Musashino Journal Autumn 2024 vol.39

武蔵野大学大学院
武蔵野大学
武蔵野大学高等学校
武蔵野大学中学校
武蔵野大学附属千代田高等学院
千代田国際中学校
武蔵野大学附属幼稚園
武蔵野大学附属有明こども園
武蔵野大学附属慈光保育園

特集
学校法人武蔵野大学創立100周年記念
世代を超えて集う座談会
恵まれた学習環境や人と人との
心地よいつながりが母校の魅力

学校法人武蔵野大学報

響き合って、未来へ。



世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World



Musashino University E.F.
学校法人 **武蔵野大学**

表紙の風景

今春、約3,300人の新入生が築地本願寺を参拝。参加者は学校法人武蔵野大学の前身である武蔵野女子学院の発祥の地で本法人の成り立ちについての講話を聴き、学祖・高楠順次郎博士の建学の理念について理解を深めるとともに、自らの夢や目標に向かって初心を固めた。
また今夏、創立100周年記念事業の一つとして築地本願寺の境内に記念碑を設置した。次の100年、そして1000年と歳月を重ねるごとに先人たちの想いを受け継ぎ、輝き続けるだろう。

フォトグラファーより

築地本願寺を抛り所とする武蔵野大学。立派な本堂に集っては散っていく学生達の顔に、緊張と安堵の表情を見ることができました。

表紙撮影：平野太呂

学校法人 **武蔵野大学**

Musashino Journal
vol.39

2024年11月20日

学校法人武蔵野大学 広報課

〒135-8181
東京都江東区有明三丁目3番3号
TEL: 03-5530-7403
E-mail: kouhou@musashino-u.ac.jp
<https://www.musashino-u.ac.jp>



**もっと英語を学んで、
将来は医療系の道に
進んでみたいという
夢があります**

武蔵野大学高等学校2年
PBLインターナショナルコース
生徒会長
山田 光香 さん



**興味のあること、
やりたいことが
多すぎるので、
自分と向き合って
進路を考えたいです**

武蔵野大学附属
千代田高等学院2年
選抜探究コース
生徒会長
吉田 弘思 さん



**取りあえず
やってみよう、という
チャレンジ精神が
大切なのだと
実感しています**

武蔵野大学
教育学部幼児教育学科3年
大学祭実行委員会 副委員長
永山 百合 さん



**活動中の一体感や
プロジェクトを
成し遂げた後の
達成感は、
味わうほどに
喜びが大きくなります**

武蔵野大学
法学部政治学科2年
学友会執行部 副会長
皆川 晏吏 さん



**武蔵野大学
ならではの
アットホームな
雰囲気をも
いつまでも
持ち続けてほしい**

教育関係勤務
人間関係学部人間関係学科
(2012年卒)
(在校時)学友会執行部 会長
湯本 成実 さん



学校法人武蔵野大学創立100周年記念 世代を超えて集う座談会 恵まれた学習環境や人と人との 心地よいつながりが母校の魅力

学校法人武蔵野大学が設置する大学と高等学校の学生・生徒、
卒業生が集まり、座談会を開きました。参加者は初対面ながら
終始和やかな雰囲気です語り合い、年代を超えた縁をつなぎ合いました。

**自分の力を信じて
自発的にリーダー役を担う**

— 学校生活の中でリーダー的な
役割を担っていますが、どのよう
なきっかけで始められたのですか。

吉田 武蔵野大学附属千代田高等学
院(以下、千代田)で生徒会長を務
めています。中学時代の先生が
「ルールは変えられる」と教えてく
られて、ルールの意味を考えるよう
になりました。ルールを変えられる環
境を整えたいと思い、生徒会長を志
しました。

山田 私は武蔵野大学高等学校(以
下、武蔵野高)で生徒会長をしてい
ます。ずっとやってみたいと思っ
ていたので、最後のチャンスだと思っ
て立候補しました。

永山 1年次から大学祭実行委員会

に参加して、3年次からは副委員長
をしています。高校時代にコロナ禍
で行事が中止になったことが心残り
で、大学では何か成し遂げる活動が
したいと思い、大学祭実行委員会に
入りました。

に、学友会執行部で活動していまし
た。2年次から参加して、3年次に
は会長を務めました。当時はまだ有
明キャンパスもなく、執行部員は20
人程度の小さな組織でした。

印象的なエピソードはありますか。
永山 コロナ禍の制約の中で活動し
てきたことが印象的です。コロナ
以前のノウハウは使えなくなり、飲
食団体との連携をはじめとして、新
たなルールづくりを手探りで実践し
ていくことは、やはり大変でした。

では、100周年記念の特別な年な
ので例年よりも装飾に力を入れ、お
客様を楽しませようと生徒皆が力を
合わせている最中です。

皆川 学友会執行部の副会長を務め
ています。執行部は生徒会のような
役割を果たす組織です。高校時代に
生徒会長を経験し、大学でも組織を
動かす活動をしたと思ったのです。

に、学友会執行部で活動していまし
た。2年次から参加して、3年次に
は会長を務めました。当時はまだ有
明キャンパスもなく、執行部員は20
人程度の小さな組織でした。

印象的なエピソードはありますか。
永山 コロナ禍の制約の中で活動し
てきたことが印象的です。コロナ
以前のノウハウは使えなくなり、飲
食団体との連携をはじめとして、新
たなルールづくりを手探りで実践し
ていくことは、やはり大変でした。

では、100周年記念の特別な年な
ので例年よりも装飾に力を入れ、お
客様を楽しませようと生徒皆が力を
合わせている最中です。

湯本 在学中は皆川さんと同じよう

に、学友会執行部で活動していまし
た。2年次から参加して、3年次に
は会長を務めました。当時はまだ有
明キャンパスもなく、執行部員は20
人程度の小さな組織でした。

印象的なエピソードはありますか。
永山 コロナ禍の制約の中で活動し
てきたことが印象的です。コロナ
以前のノウハウは使えなくなり、飲
食団体との連携をはじめとして、新
たなルールづくりを手探りで実践し
ていくことは、やはり大変でした。

では、100周年記念の特別な年な
ので例年よりも装飾に力を入れ、お
客様を楽しませようと生徒皆が力を
合わせている最中です。

湯本 在学中は皆川さんと同じよう

に、学友会執行部で活動していまし
た。2年次から参加して、3年次に
は会長を務めました。当時はまだ有
明キャンパスもなく、執行部員は20
人程度の小さな組織でした。

印象的なエピソードはありますか。
永山 コロナ禍の制約の中で活動し
てきたことが印象的です。コロナ
以前のノウハウは使えなくなり、飲
食団体との連携をはじめとして、新
たなルールづくりを手探りで実践し
ていくことは、やはり大変でした。

では、100周年記念の特別な年な
ので例年よりも装飾に力を入れ、お
客様を楽しませようと生徒皆が力を
合わせている最中です。

Contents

- 2 特集
学校法人武蔵野大学創立100周年記念
世代を超えて集う座談会
恵まれた学習環境や
人と人との心地よい
つながりが母校の魅力
- 5 令和6年度 武蔵野大学の
新入生が築地本願寺参拝
- 6 学校法人武蔵野大学創立100周年記念事業
能楽公演
「親鸞聖人—夢と教え—」を
築地本願寺本堂で開催
- 8 学校法人武蔵野大学創立
100周年記念プロジェクト
「スクールソング等プロジェクト」
心と歌声を響き合わせた
スクールソング「君の花咲かせて」
- 10 学校法人武蔵野大学創立100周年記念
池上彰氏講演会
「もっと知りたい」を求める
好奇心が「学び続ける力」に
- 12 武蔵野大学 中学校・高等学校
グループワークで自分の持ち味を発見する
- 14 千代田国際中学校
学校説明会でLAPの全ゼミを公開
- 16 武蔵野大学附属幼稚園
短冊に願いを込めて七夕飾りに挑戦
- 18 武蔵野大学附属有明こども園
全身絵の具まみれでお絵かきを楽しむ
- 20 武蔵野大学附属慈光保育園
にじいろ通信
- 21 『学問の地平から』
教員が語る、研究の最前線
- 22 NEWS & TOPICS
- 24 建学の精神
お朝拝があるということ
武蔵野大学中学校・高等学校
羽田 慶仁 先生
- 25 学校法人武蔵野大学後援会
- 28 表紙の風景
フォトグラファーより

読者アンケートに
ご協力ください。
右のQRコードより
アクセスできます。





あいさつをする築地本願寺
副宗務長 木村 共宏 師

4月8日、武蔵野大学に入学したばかりの新入生全員が、教員とともに築地本願寺を訪れて参拝に臨みました。

参拝では、合掌・礼拝にはじまり、讃仏偈、念佛、回向をとなえながら、代表者による焼香が行われました。

続いて登壇された築地本願寺副宗務長の木村共宏師は、あいさつの中で築地本願寺の歴史を振り返りました。創建時は浅草近くにあった本願寺が「明暦の大火」とよばれる大火で焼失したのは1657年。再建のために江戸幕府から与えられた現在の場所は海の上だったことから、海を埋め立てて土地を築き、本堂を建立しました。その史実が「築地」という名前の由来になったといえます。

次に、講話のために登壇した



代表学生による焼香

武蔵野大学の西本照真学長は、新入生に向けて武蔵野大学創設のエピソードを披露しました。1923年に発生した関東大震災の災禍で築地本願寺の本堂が再度焼失。その跡地に日本赤十字社が仮設の救護所を建てて、被災者のケアにあたっていたといいます。その後、使われなくなった病舎を学祖・高楠順次郎博士が借り受け、「生きとし生ける



講話を述べる西本 照真学長

ものが幸せになるために」という願いとともに学院開設を決議されたことなどを語りました。

参拝に参加して気持ちを新たにした新入生たちは「創立100周年の年にこの場に行われることに、縁を感じます」「武蔵野大学の歴史の中に自分たちも加わられたようで、厳かな気分になりました」などと語り、大学生活への期待に胸を膨らませていました。



令和6年度 武蔵野大学の 新入生が築地本願寺参拝



(上) 紅雲台で過ごした3.11の夜(下) 執行部の仲間たちと
(写真提供 湯本 成実)

怖さを感じました。その日は帰宅できずに武蔵野キャンパス内の紅雲台(共用スペース)で一夜を過ごしましたが、仲間がいてくれたことでとても心強かったですね(写真参照)。

**今いる場所が好きだから
他の人にも知ってほしい**

——自分が通う学校の魅力を教えてください。

吉田 千代田は、穏やかに見えて、やりたいことに熱い気持ちを抱いている生徒が多いと感じます。そんな生徒の話にしっかりと耳を傾けて、親身になって向き合ってくれる先生がいることも魅力です。

山田 武蔵野中高は大学の武蔵野キャンパスと同じ敷地の中にあるため、緑の多さが魅力です。この場所で多くの先輩たちが学んできたのだと思うと、その歴史を誇りに思いま

す。生徒間には、男女問わず壁がなく、お互い自由に意見を交わし合える雰囲気があります。千代田と一緒に、先生と生徒の仲もいいと思います。

皆川 有明キャンパスは、まず臨海副都心エリアという立地環境が魅力です。SDGs(持続可能な開発目標)を意識したキャンパスに、現代的な新しさを感じます。留学生も多いせいか、国際的な多様性に触れる機会も多いですね。他学部と関わる授業などでは、さまざまな国・地域の人の意見が聞けて、視野を国際的に広げられています。

永山 自然豊かな武蔵野キャンパスは、四季折々の風景に癒やされます。秋は並木道のイチョウが色付き、つい写真を撮りたくなるほどです。敷地内に附属の幼稚園や保育園があり、幼児教育を実践的に学べる環境であることも魅力です。子どもたちと触れ合いながら、自然の大切さを伝えたり、共に発見を楽しんだりできるので充実しています。

湯本 大学時代の思い出は執行部のことばかりですが、夢中になって取

り組んでよかったと感じています。いろいろな人と触れ合う経験を積み重ねる中で、自分の適性に気付けました。発達心理学を学べたことも、今の仕事に生かせています。

——先輩に聞いてみたい質問はありますか。

山田 高校から大学に進学して、大きく変わったことはありませんか。

皆川 人と関わる範囲が広がりましたね。全国からいろいろな人が集まり、留学生もいるので。高校時代は地元や県内という限られた範囲での関わりだったと気付きました。

永山 自分の中で大切にしていることはありますか。

湯本 人の意見に耳を傾けることを大事にしています。後はチャレンジ精神。迷ったら「取りあえずやってみよう」と考えるようにしています。

皆川 執行部の活動と学業と、両立するのは大変だったのでは。

湯本 執行部は実務が多様ですが、どうしても時間がかかってしまいがちですね。私は周囲を頼りました。困ったことがあれば相談したり、手を貸してほしいとお願ひしたり、サポートし合える関係づくりを心掛けました。辛い時には一人



で抱え込まずに、周りを頼ることも大切だと思いますよ。

——皆さんのお話から、学校法人武蔵野大学の各学校在学された学習環境にあること、人と人との心地よいつながりを魅力として感じていることが分かりました。本日はお集まりいただき、ありがとうございました。

(取材日:2024年9月)

能楽公演

「親鸞聖人—夢と教え—」を 築地本願寺本堂で開催

6月29日、能楽公演「親鸞聖人—夢と教え—」が開催されました。舞台となった築地本願寺の本堂には招待されたのべ600名が集い、昼夜2度行われた公演を鑑賞しました。



能楽公演は、築地本願寺(東京都中央区)の本堂に特別に設えた舞台上で上演された。新作能「親鸞」(ソレ・田植女 佐藤 寛泰 佐藤 陽、撮影 尾形 美砂子)

能楽公演は、学校法人武蔵野大学創立100周年記念事業であると同時に、親鸞聖人御誕生850年、立教開宗800年慶讃法要を祝う築地本願寺の記念行事でもありました。公演の冒頭では、築地本願寺の中

尾史峰宗務長と学校法人武蔵野大学の長野了法理事長が登壇、来場者に向けて感謝の意を表しながら、あいさつの言葉をそれぞれ述べました。上演された演目は、舞囃子「羽衣」、狂言「悪太郎」、新作能「親鸞」の3作品。この公演をより深く鑑賞できるようにと、武蔵野大学能楽資料センターの三浦裕子センター長(文学部日本文学文化学教授)が、上演曲や能と狂言のあらまし、本公演のテーマ「親鸞聖人—夢と教え—」を知るためのキーワードなどについて解説しました。

室町時代から続く 伝統芸能である能と狂言

能と狂言は室町時代から演じられてきた伝統芸能で、総称して「能楽」と呼ばれます。もう少し詳しく言うと、能は謡という声楽と舞という所作、囃子という楽器で構成される歌舞劇です。主要な役柄が能面をつけることから、仮面劇とも言われます。

そのような能を部分的に上演する形式のひとつが舞囃子です。舞の見どころを中心に、シテ(主役)と地謡(コーラス団)と囃子で演じられます。能面・能装束は省略され、上下または紋付袴でつとめるのも大きな特徴です。

一方、狂言はセリフを主体とする

喜劇です。庶民が日常に犯すさまざまな失敗を描く作品が多くあります。それぞれの魅力が光った3演目

最初の演目の舞囃子「羽衣」は能の人気曲です。あらすじは、駿河国(現在の静岡県)三保の松原で、漁師が松にかかる羽衣を見つけ持ち帰ろうとします。すると天人が現れ、それがなければ天に戻ることができないと嘆くので、羽衣を返します。天人はお礼の舞を舞い天に帰ります。天人を演じたのは友枝昭世氏(シテ方喜多流宗家預り。人間国宝)。地謡と笛・小鼓・大鼓・太鼓が奏でる囃子とともに美しい舞を披露しました。ちなみに、「羽衣」ではこの天人の舞が雅楽「東遊」の起源になったという由緒が語られます。なお、小鼓を打たれた大倉流宗家の大倉源次郎氏も人間国宝です。「羽衣」は二人の人間国宝が参加した舞囃子でもありました。

次に演じられた「悪太郎」は、舞台やテレビでも活躍する狂言師・野村萬斎氏がライフワークとして取り組まれている狂言です。

あらすじを紹介すると、乱暴者の悪太郎は、伯父宅に押しかけ長刀で脅すので、伯父が酒を振る舞います。悪太郎は悪酔いし、帰る途中の路上



舞囃子「羽衣」(シテ・天人 友枝 昭世、撮影 尾形 美砂子)

の初演を含めて、これまで3度しか上演されておらず、40年ぶりに4度目の上演がなされました。「親鸞」のあらすじは、親鸞聖人の旧跡である常陸国(現在の茨城県)稲田を訪れた僧の前に恵信尼が現れ、夫の親鸞聖人が観音菩薩の化身であると夢に告げられたことを語り、念仏の尊さを説きます(前半)。やがて救世観音姿の親鸞聖人が現れ、浄土真宗を開いた慶びを舞います(後半)。

恵信尼と親鸞聖人を演じた佐々木多門氏はシテ方喜多流能楽師。本学の客員教授もつとめています。観客全員にパンフレットが配布され、そこには、プログラムや出演者



新作能「親鸞」(前シテ・恵信尼、後シテ・親鸞聖人 佐々木 多門、撮影 尾形 美砂子)

で寝入ってしまいます。後を追ってきた伯父は悪太郎の髭と髪を剃って出家姿に変え、「今日から汝の名は南無阿弥陀仏である」と言います。目が覚めた悪太郎は自分の姿に驚くものの夢のお告げと信じ、信仰に目覚めていきます。

最後の演目「親鸞」は、武蔵野女子大学(武蔵野大学の前身)文学部日本文学科の初代主任教授であった土岐善麿(日本芸術院会員)が、喜多流十五世宗家の喜多実氏(やはり日本芸術院会員)と二人三脚で作った新作能のひとつです。1961年



狂言「悪太郎」(シテ・悪太郎 野村 萬斎、撮影 尾形 美砂子)

紹介のほか「親鸞」の詞章と現代語訳、また「親鸞聖人を知るためのキーワード」「能・狂言への誘い」という解説文がありました。これは能楽になじみのない人たちでも鑑賞しやすい手引きの役割をはたしていました。観客たちは本堂で舞われた美しい舞と、そこに響き渡る力強い謡と囃子に魅了された様子でした。終演のときには、ひとときの夢から覚めてわれに返ったように、大きな拍手が起りました。

今回の能楽公演は演者、観客、十四世六平太記念財団および土岐康二氏(善麿の令孫)、そして共催の築地本願寺の皆様のご協力のもと無事に開催することができました。

学校の枠を超えて連携し、 共同でスクールソングを制作

今回誕生した新たなスクールソングは、歌詞と曲の制作から、完成した歌の披露まで、学校法人武蔵野大学の生徒・学生が数多く関わっています。

始めに武蔵野大学中学校・高等学校にて「元気が出る応援歌」の歌詞を考えるワークショップを展開。マインドマップを活用し、イメージを膨らませながら257作品、3799のフレーズを集めました。

そのフレーズを使って、大学生が歌詞と作曲に挑戦。AI技術を取り入れたグループワークで多くの知恵を集結し、心に響く歌詞、歌って心地よい曲へと組み立てます。

最終調整は教員たちがサポート。総勢**796人の学生・生徒や教員が参画し**、未来への思いを一曲に集結させた結果、若者たちの感性が感じられるポップな曲調のフレッシュな応援歌に仕上がりました。



AIを活用した歌詞・作曲ワークショップの様子



スクールソングをイメージした作曲ワークショップ

学生広報チームの
記事はこちら



「君の花咲かせて」

作詞作曲 学校法人武蔵野大学 100th Anniversary Team
(796人の学生生徒と杉浦みずほ・中西崇文・岡田龍太郎・高牧恵里・西出真理)

知識の海 泳ぎ抜けて
未知の世界へと旅立とう
心と心つなげて 新しい夢へと
学びの旅は 果てしなく
歴史を越えて 希望の光に
高鳴る鼓動 突き進め
この瞬間を
太陽くらいあつく あの空に
君の花咲かせて
君の花咲かせて
知識の糸を紡ぐ
一歩ずつ 前へ 前へ
心のコンパス導く方へ 冒険の始まり
すべては経験に変わる
やまない雨はない
ともに歩むこの時 大切に
響きあつて さあ未来へ
太陽くらい眩しく 輝いて
君の花咲かせて
君の花咲かせて
太陽くらいあつく あの空に
君の花咲かせて



科教員である杉浦みずほ先生。
「元気が出る応援歌」として紡がれた歌詞に思いを乗せて歌う学生・生徒の様子を見守る各校教員のまなざしは温かく、またどこか誇らしげにも見えました。

記念のスクールソングは、
これからも歌い継がれていく
参加した学生からは「100年間の間、多くの先輩たちが歴史をつないできてくれたからこそ、今私たちがここにいるのだと改めて感じる機会になりました。その原点で歌えたことが、とてもうれしいです」という声もあがり、貴重な経験に感じ入っている様子でした。
完成したスクールソング「君の花咲かせて」は、創立100周年記念事業プロジェクトの特別サイト等で公開されています。生徒・学生たちがはつらつとした歌声を披露していきますので、どうぞお聞きください。



学校法人武蔵野大学創立100周年記念プロジェクト「スクールソング等プロジェクト」

心と歌声を響き合わせた スクールソング「君の花咲かせて」

7月21日、創立100周年記念事業プロジェクトの一環として、スクールソングのCD音源収録とミュージックビデオの撮影が武蔵野大学発祥の地である築地本願寺で行われました。

本堂に響き渡る歌声の
パワーが多くの人を笑顔に

創立100周年の記念に、多くの学生・生徒と教職員が力を合わせて完成したスクールソング「君の花咲かせて」。そのCD音源収録とミュージックビデオ制作のために、武蔵野大学中学校・高等学校の生徒や武蔵野大学附属千代田高等学院で合唱部やブラスバンド部に所属する生徒たち、武蔵野大学の学生・卒業生らが集結。年代の枠を超えた、男女混声の100周年記念合唱団が結成されました。

今回収録されたCD音源曲は、スクールソングに加えて、設置校で日頃から歌唱されている校歌、学院歌、仏教讃歌です。スクールソング「君の花咲かせて」は武蔵野大学中学校・高等学校の生徒と武蔵野大学の



学生・卒業生が歌唱を担当。その他の曲の歌唱とミュージックビデオ撮影には千代田高等学院の生徒も参加しました。

日ごろの部活動とは違った雰囲気、合同練習の開始直後は緊張した面持ちだった合唱団メンバー。それでも、リハーサルでお互いの声を響

き合わせるうちにリラックスしたのか、ほどなく息の合ったハーモニーを披露していました。

合唱団の生徒・学生たちを連携してサポートしたのが、各校の音楽担当教員たちです。

「歌詞に込められた意味や、日本語の響きを大切にしてほしいという思いで指導しました」と語ったのは、武蔵野大学中学校・高等学校の音楽

武蔵野大学附属千代田高等学院



前列左から原 杏樹さん(1年)、石井 湧大さん(2年)、後列は川名 奈紀先生

武蔵野大学



前列左から鈴木 真理先生、高牧 恵里先生、後列左から井上 智佳子さん(文学部2年)、志村 彩珠さん(人間科学部2年)、豊田 純菜さん(教育学部2年)

武蔵野大学高等学校



前列左から嶋崎 和奏さん(2年)、齋藤 ももさん(2年)、船山 智成さん(1年)、後列は杉浦みずほ先生

学校法人武蔵野大学創立100周年記念
池上彰氏講演会

「もつと知りたい」を 求める好奇心が 「学び続ける力」に

9月21日、ジャーナリスト・池上彰氏による学校法人武蔵野大学創立100周年記念講演会「学び続ける力」が開催されました。池上彰氏の博識で機知に富む講演を楽しみに、多くの人が訪れました。



100
学校法人武蔵野大学創立100周年記念講演会
「学び続ける力」 講師 池上彰 先生

わかります。「これが何の役に立つの
だろう」という思いに駆られつつも
学校教育を終え、大人へと成長して
から大切なことに気付くのです。
世界で起きていることを理解する
ために、出来事に共通する事柄を抜
き出して因果関係を分析する行為
は、かつて頭を悩ませた「因数分解」
そのものだということ。学校教育



を受けて学んできたことは、理解に
たどり着くための手がかりとなる基
礎知識であったこと。教育に何も無
駄はないことに気付いた池上氏は、
「教養とは知識を運用する力」と定
義するまでに至るのです。

学びは自分だけの財産 いつからでも始められる

池上氏は、取材で世界を飛び回る
中で、読み書きを学ぶことすらでき

登場から会場を沸かせた 池上氏の存在感

記念講演会の会場となった東京
ビッグサイト国際会議場には、学校
法人武蔵野大学の関係者約600人
が参加。制服に身を包んだ武蔵野大
学高等学校、武蔵野大学附属千代田
高等学院の生徒たち、さらに武蔵野
大学の学生、教職員、卒業生、後援
会の皆さんなどが各ブロックに分か
れて席に着き、池上彰氏の体験に基
づいたエピソードがふんだんに盛り
込まれた講演に耳を傾けました。

記念講演会の始めには、学校法人
武蔵野大学の長野了法理事長があい
さつ。司会進行を務めた茂木亜希子
さんの呼びかけで池上氏が登場する
と、大きな拍手が鳴り響きました。

「なぜ」の答えを追い求めて 学び続ける毎日

自らを「好奇心の塊」と評した池
上氏は、そこそが「学び続ける力」
の原動力だとして、世界に向けた興
味の矛先を語り始めました。

世界中で起きているさまざまな事
柄に触れる度、「なぜそうなったの
だろう」という疑問が生まれ、答え
を求めて、背景を調べ始めるという
池上氏。やがて、その国や地域の歴
史や宗教観などからくる因果関係に

ずに過酷な生活環境の中で働いて
いる子どもたちを何人も見てきたと
います。自分の名前すら書けずにい
た子どもたちが、支援団体の協力で
文字を学び読み書きができるよう
になった時、新たな世界への一歩が開
きました。また、フィリピンのスラ
ム街で暮らし、学びの機会を得て学
校の先生になった女性は「教育は、
決して盗まれることのない財産で
す」と語ったそうです。その言葉に
は、これまで搾取されてきたからこ
そ、誰にも奪われることのない財産
を得た喜びがあふれていました。
「学ぶことは年齢に関係なく、幾つ
になっても遅くはありません。
お子さんたちが勉強しているの



小西 聖子 武蔵野大学副学長から花束の贈呈



気付き、もつと理解しようとするほ
どに知識が深まっていく。「知りた
い」という思いが、そうした学びの
好循環を生み出しているというわけ
です。

講演の中で、池上氏が特に強く伝
えたのは「教育の大切さ」でした。
義務教育制度のある日本では、幼
い頃から文字を習い、数字を使った
計算を学びます。中学や高校では因
数分解や対数など、複雑な数式も教



講演後、武蔵野大学学生広報チームのインタビューに応える池上 彰氏

なら、親御さんもまた勉強して、人
生の学びをぜひ続けてください」
終始温和な口調で語っていた池上
氏は、最後に会場全体にこう呼びか
けて、講演を締めくくりました。

講演を終えた池上氏は、武蔵野大
学学生広報チームの一員である学生
からインタビューを受け、「インタ
ーネットの情報は玉石混交で正しい情
報ばかりだとは限りません。情報を
得るという意味では、新聞か本を活
用することをおすすめします」との
アドバイスを残しました。



武蔵野大学
中学校・高等学校

グループワークで自分の持ち味を発見する

武蔵野大学高等学校の特別授業「LAM」は、生徒にとってはもちろん、教員や外部講師にとっても刺激や発見のあるワクワク時間となっている。

その道のプロが教える
特別講座

武蔵野大学中学校・高等学校は、生徒が積極的に学校の雰囲気が出るという声をよく耳にします。生徒の熱意や夢を引き出しているのが、独自の探究プロジェクトです。

高校1年生のLAM (Liberal Arts Musashino) は、外部の専門家とタイアップして作り上げる全10回のオリジナル講座です。2024年度前期はアートシンキング、映像制作、韓国語、空想地図作り、ソーシャルダンス、デザイン書道、哲学対話、ストリートカルチャーの8講座を開講しました。

今回は映像制作を例に、LAMの流れと生徒の成長の様子を紹介します。映像制作講座を担当する(株)カルペ・ディエムの石橋康志郎氏は、授業の目的を次のように説明します。「普段目にしていない映像の裏側にはビジネスがあり、プロの技術があります。動画の撮影・編集を体験するだけでなく、人や金の流れ、企画・

発信手法なども学べる内容にしています」

制作に欠かせない
技術と心構えを教わる

1・2回目は人気アニメ作品のプロデューサーから、制作費用や売り上げ、宣伝など普段は見えない部分について話を聞きました。「30分の番組にこんなに多くの会社とお金が動いているなんて」と、業界の生の情報に生徒も興味津々です。

映像制作講座は6人ずつの6グループに分かれて作業をします。この2回はグループワークの準備も兼ねていて、プロデューサー、ディレクター、カメラ、編集の役割分担を決めたり、自分たちの高校にどのような映像の需要があるかについて話し合ったりしました。

3・4回目は、グループワークで制作する動画やシナリオの内容を詰めていきます。ここではビジネスシーンでもよく使われる「KJ法」を活用しました。アイデアを書いた付箋をグループ化して意見をまとめ

ていく手法です。作業を進めるうちに、仲間意識も芽生えます。

5回目はプロからのフィードバックに基づいて構成やシナリオを見直し、6回目はアニメ制作スタジオへ出向いて本番と同じ映像や台本でアフレコを体験しました。

7回目からはいよいよ制作です。テーマは「学校の魅力」と「受験生へのメッセージ」から選びます。

まずは映像監督の鈴木研一郎氏が、撮影手法をレクチャーしました。最初に人の顔、次にドーナツを見せると、見た人の脳が「おながやすい」という意味合いを作り出す「モニタージュ」などの効果を教わり、生徒たちも実際に試してみました。鈴木氏が生徒に知ってもらいたいのは、「見慣れている映像の裏にある理論や手法」だと言います。

「一番伝えたいのは、撮影や編集のテクニックよりも、見る人のことを考えて客観的に丁寧につくることです。私自身、高校生の頃に感じたワクワク感を今も大切にしているのので、皆さんにもそれを感じてもらい

前期と後期の2講座で
視野も経験も2倍に

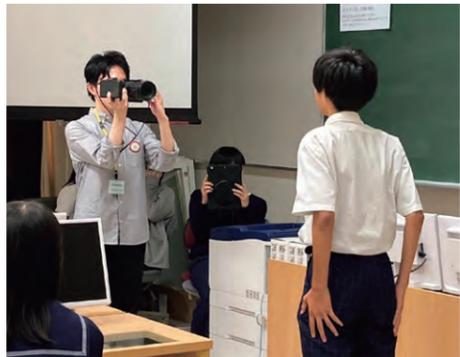
LAMの学びをきっかけに、将来の夢を見つける生徒もいますが、LAM担当の世良光先生は「全員に共通するのは、グループワークで自分の力を発揮できるようにすること」だと話します。カルペ・ディエムの小松美国氏も、10回を通して生徒たちの変化を感じています。

「高校生はとても柔軟で、最初はなかなか進まなくても、何かをきっかけに最後はきちんとまとめてくれます。その中で気付いたこと、例えば自分はリーダーシップがありそう、アイデアを出すのが楽しいなどを、今後他の場面で生かしてもらえたら何よりです」

撮影担当で出演もした1年白組の酒井梨温さんには、こんな気付きがあったようです。

「プロの映像は説明用の短いものでもクオリティーがとても高く、驚きました。撮影で大変だったのは、そのシーンを考えながら、前後のシーンとのつながりも意識しなくてはならないことです。おかげで、いろいろな視点から物事を見る、考える力が付いたと感じています」

LAMが今後の学校生活、大学や社会で役立つ力につながるものとな



9月に行われた発表会の様子(上段)。下段は普段の授業の様子



高校1年の酒井 梨温さん(左)と1年国語科の世良 光先生(右)



カルペ・ディエムの石橋 康志郎氏(左)と小松 美国氏(右)

るよう、教員も工夫や配慮をしています。「前期と後期に分けているのは、触れる世界を増やし、異なるメンバーでグループ活動を経験してもらうためです。また、複数の講座を体験して生徒自身の興味や価値観を広げてほしいと思っています」(世良先生) 導入から6年目を迎えたLAMは間違いなく、武蔵野大学高等学校が掲げる「一人ひとりの将来を見据えた教育」を象徴する科目となっています。

「たいです」(鈴木氏) 8・9回目はキャンパス内で必要なカットの撮影と編集を進め、10回目に完成した作品の発表会を行いました。



映像監督の鈴木 研一郎氏(右)が、海外からオンラインで各グループに感想とアドバイスをしてくれた



千代田国際中学校

学校説明会でLAPの全ゼミを公開

オープンスクールでは特別プログラムを用意する学校が多い中、千代田国際中学校は普段の生徒の様子を見てもらうため、初めて「LAP」の授業を公開した。

受験希望者の親子が自由に各ゼミを見学

9月というのに気温が32度を超えた土曜日、千代田国際中学校の授業見学会に、たくさんのお親子が訪れました。土曜日はゼミ活動のLAP[※]が行われる日で、参加者は各教室を自由に見て回りました。

見学会でLAPを公開した意図を、副校頭の城野大輔先生は次のように説明します。

「LAPは本校の教育の入り口です。まずは楽しみ、活動を通して視野を広げ、既存の枠を外し、課題発見やアウトプットにチャレンジしていく。それが教科学習への意欲を高め、キャリアデザインにもつながると考えています。保護者の関心も高いため、実際に見ていただくのが一番と考えました」

2024年度のLAPでは中学2年・3年対象の次の7つのゼミを公開。見学会当日は社会人講師と一緒に活動する日で、多くのゼミが藤華祭（文化祭）での中間発表に向けて



体育館で行われた全体説明会の様子

準備を進めていました。

■遊びクリエイトゼミ

みんながより楽しく遊べる「新しい遊びのルール作り」に取り組んでいます。例えば「だるまさんが転んだ」を「本当に転んでみたら」「ケンケンで近づくことにしたら」と意見を出し合いながら、実際に体を動かしてみます。机に座っているときに比べ、意見やアイデアが出てくるようです。

■アメリカ研究ゼミ

銃の所持、ホームレス、ジェンダー問題など、メディアであまり取り上げられないものも含めて米国の抱える社会問題について調べています。自分が州知事ならその問題をどう解決するか考え、幸せな未来をつくるためのマインドを養います。ディベートでは、自分の意見を伝えようとする意欲が感じられました。

■映像制作ゼミ

アニメーションや3Dなどの表現技術を通して、映像制作の世界に触れます。文化祭に向けて、プロジェクトで撮影するプロジェクトマップの映像を制作。タブレットの画面で見る映像と異なり、広がりや立体感を演出する部分が難しく、講師の映像クリエイターにアドバイスをもらっていました。

■建築デザインゼミ

簡単な平面図を書いてみたり、美術館の見学に向いたりして、建築

と交換に、特別見学や特別体験をさせてもらうのが最終目標です。農業現場のビッグデータ活用について聞く座学の回もあります。

■メディアデザインゼミ

社会問題の解決方法を考える中で、どういったアウトプットをすれば周囲に関心を持つてもらえるかを模索しています。1チームは廃棄衣類を材料としたアクセサリの商品化、もう1チームは寺院減少の解決の糸口として、仏教用語を取り入れたカードゲームの考案を進めています。SNSを通じたPRにも挑戦します。

■1年生共通プログラム

前期のテーマは自己探究と自己表現。講師から自分を表現する方法を学び、他者へ伝えることを意識したカメラワークを練習し、自分らしさを表現する動画を制作しています。

説明会に参加した保護者からは、「自主的に取り組む様子は、中学生とは思えませんでした」「どの生徒もののびしているのが印象的でした」などの感想が寄せられました。城野先生は、3年間LAPを経験した現3年生に変化が見られると言います。「一番大きい変化はパッと答えを出

の成り立ちを知り、建築デザインへの知見を深めます。今回は、一人ひとりが夏休みに撮影した建築についての報告。最終的には、水族館×美術館、カフェ×美術館など、他のテーマの施設と掛け合わせた美術館を企画します。どんなアイデアが出てくるか、楽しみます。

■生物研究ゼミ

恐竜の進化、タコの生態、集団心理など自分で選んだテーマについて、個人またはチームで研究を進めています。大学の研究と同様に予め「研究計画書」を作成し、資料やネットで調べるのではなく、中学生でも実現可能な実験・調査手法を講師と相談しながら、科学的に考察します。真剣なまなざしが印象的でした。

■農業ゼミ

中庭のプランターで千代田区産の無農薬野菜を栽培しています。前期はキュウリ、トマト、オクラなどの夏野菜を栽培し、今回は秋冬野菜に向けて土をリフレッシュ。収穫野菜

さないうで、深く考えるようになったことです。楽しい、好きという初めの一歩から大きく前進したのを感じます」

「未来をつくる」力を育てる

2022年度から取り組んできた千代田国際中学校の学校づくりは、3年間で一つの完成形に至り、2025年度からは千代田中学校・高等学校として始動します。基本的な教育内容は変わらず、生徒の「未来をつくる」力を育てる環境をさらに整えるため、中学校としては珍しく「開発」と「研究」のコース制を導入します。

LAPは、開発コースでLAPゼミとして継続。研究コースでは「研究ラボ」と名称を変え、基礎・応用研究に取り組みます。開設を予定しているのは、構造生物学、環境DNA、現象数理、システム工学、宇宙物理、有機化学、医療/命、サイエンスコミュニケーションなどです。

「理系と文系、国内と海外、そうした従来の線引きにとらわれず、生徒と教員、社会人の協働や連携を通じて、生徒が『もっと知りたい』『この課題を解決したい』という気持ちを抱き、新しい価値を生み出せる場所にしていきます」(城野先生)





武蔵野大学附属
幼稚園



1 真剣な表情で、飾りの中で一番難しいちょうちんを作る園児たち
2 3 4 園児たちが運んできたクラスの笹は、毎日少しずつ飾りが増えてカラフルに



5 かさぎが天の川に橋を架けてくれ、織姫と彦星が再会したシーン
6 先生たちの七夕劇を楽しむ園児たち
7 織姫の父・仙人を演じた石上 和敬園長



短冊に願いを込めて七夕飾りに挑戦

暑い夏の始まりを告げる七夕まつり。
色とりどりの飾りを作る過程で園児たちは達成感を味わい、一歩成長する。

笹運びに飾り作り 今年も七夕がやってきた

6月末から7月初めにかけて、各クラスの七夕飾りが武蔵野大学附属幼稚園内を彩ります。

飾りをつける笹は、毎年、武蔵野キャンパス内の竹林から調達。初めて笹運びをする年少組は「どこを持ったらいいの?」「暑いよ」と苦戦していました。3回目となる年長組は、「わっしょい、わっしょい」と威勢のよいかげ声とともに、元氣よく担いできました。

折り紙で作る飾りは、輪つなぎや扇面つなぎ、貝つなぎ、そしてちよつと難しいちょうちんなどです。折り紙が得意でクラスメイトに「ここを先に折るんだよ」と教えてあげる子もいれば、上手に作れたことがうれしくて同じ飾りをいくつも作り上げる子、使う色や飾りをつなぐ順番にこだわりを持つ子など、それぞれに飾り作りを楽しんでいました。

武蔵野大学附属幼稚園では、「縦割り保育活動」として年少・年中・

年長の園児で構成する「仲良しペア」で一緒に過ごす時間を設けていて、七夕に向けて年長さんがペアの年長さんに飾りの作り方を教える日もあります。

主事の景谷裕香先生によれば、七夕飾り作りのような制作活動で子どもたちは一歩成長するそうです。「大事なのは作る過程です。これまでできなかったことができるようになってきたり、苦手なことに挑戦したり、また友だちと一緒に楽しむ姿があったり。このような経験の積み重ねで子どもたちは力をつけ、豊かな感性を育んでいきます」

飾り作りはクラスでも行いますが、園児たちは自由遊びの時間にも



主事の景谷 裕香先生

ロマンチックな物語と 星形おやつが思い出

2024年は七夕当日が日曜に当たったため、恒例の「七夕まつり」は7月5日の金曜日にホールで行いました。

全クラスの園児がホールに集合すると、先生たちがステージで織姫と彦星の物語を上演します。ステージ横では劇の進行に合わせて先生がピアノで音楽を奏でたり、彦星が縦笛を吹きながら登場したりと、園児が楽しめるような仕掛けがあちこちに。織姫を演じた景谷先生は、「口

マンチックな行事ですから、そこを子どもたちに感じてもらえたら」と話します。

かさぎが天の川へ橋を架けてくれたおかげで、織姫と彦星が再会を果たしてハッピーエンドになりました。最後にステージ上で出演者の先生たちが「笹の葉さーらさー」と七夕の歌を歌い始めると、園児たちも大きな声で一緒に歌います。

「夢を思い浮かべながら食べると、その夢がかなう」という星形のおやつをもらった園児たちは、保育室へ戻ってからみんなで一緒においしそうにパクパク。

好きなものを作っています。その中で友達と一緒にものを作る楽しさ、年下に教えるときに覚える自尊心、お兄さんやお姉さんへの信頼感やあこがれなど、さまざまなことを感じているはずです。

七夕飾りでもう一つ目を引くのが、一人ひとりの将来の夢をつづった短冊です。「魔法使いになりたい」「鳥になって飛びたい」など子どもらしい願いが並びます。

年少組の園児には、なりたいたいものと好きなものの区別なく、願い事を聞くと「どうになりたい」と願う子がいたそうです。そう伝えてきた時の眼差しは真剣そのもので、短冊の色は象をイメージする水色を迷わず選んでいたそうです。「どうになりたい!」と心から願っているのでしょう。他にも「白い猫を飼う人になりたい」「ケーキをいっぱい食べたい」という無邪気かわいらしい短冊が並びました。

願いの文章は先生に書いてもらいますが、もう片面には園児が自分の願いを絵で描きます。

「七夕まつり」が終わると、園児たちは自分の作った飾りと短冊の下がった枝を切つてもらい、家に持ち帰ります。最近は笹を小売りする花屋さんが減り、七夕飾りをする家庭が少なくなると、お父さん、お母さんたちにも「久しぶりに七夕飾りを目にした」「懐かしい」と好評です。きつと7日の夜には、笹に下がった短冊をながめながら、「大きくなったらこれになりたいんだね」「お父さんは子どものときに何になりましたの」と家族の会話が弾んだことでしょう。

大学の幼児教育学科の 学生たちが千羽鶴を折る プロジェクトを実施中



武蔵野大学附属幼稚園は、武蔵野大学教育学部幼児教育学科の学生の実習やインターンシップを受け入れています。最近では同学科のゼミからさまざまな提案が寄せられるようになり、武蔵野キャンパス内で園児と学生の交流が増えてきています。

「命の大切さ」をテーマに千羽鶴を折るプロジェクトもその一つ。園児たちは2024年4月にモルモットのサイダーくんとお別れをしたばかりで、年長組が週に2、3回、朝の自由遊びの時間に「大好きな動物を忘れないように」という思いを込めて鶴を折っています。

学生たちは、「アイスクリームのでっぺん」など園児たちが親しみやすい言葉で折り方を説明したり、赤い鶴を折り終わったら赤いシールを表に貼って全部で何羽折ったのかをひと目で分かるようにしたりするなど、さまざまな工夫を凝らしています。

幼稚園の先生たちは、「園児はお兄さんやお姉さんが来ることをとても楽しみにしていて、信頼関係も生まれているようです」と温かく見守っています。千羽鶴折りは2学期も続き、1000羽完成したら学生が上野動物園の動物慰霊碑に届ける予定です。



夢がかないますように





武蔵野大学附属
有明こども園



幼児クラスの子どもたちは3つのグループに分かれ、協力して大作を仕上げるかのように、ダイナミックな絵の具遊びを楽しんだ。それぞれのグループに新しい絵の具、新しい模造紙、新しいダンボールが用意されたが、白紙を保っていたのはほんの一瞬で、すぐに色とりどりの小さな手形が咲き乱れることに。お絵かき空間として、園庭に敷かれたビニールシートの上は、あっという間に絵の具にまみれ、先生や自分たちの洋服も、色彩豊かに染め上げられた。

全身絵の具まみれでお絵かきを楽しむ

「ゆびえのぐ」を使った「ボディーペインティング」を実施。
自由な感性で思いのままに描く園児たちによって、園庭も先生もカラフルに彩られた。

手のひらや指を使って 全身でお絵かきを楽しもう

5月16日、武蔵野大学附属有明こども園では、幼児クラスを対象に「ボディーペインティング」を実施しました。

ボディーペインティングに使用したのは、8色の「ゆびえのぐ」。手のひらや指を使ってお絵かきを楽しめる、フィンガーペイント専用の安全性の高い絵の具です。アレルギー物質を含まず、国際玩具安全基準に適合した原材料でつくられているので、安全に遊ぶことができます。水性の絵の具なので、手や洋服にどれだけ付着しても、後から簡単に洗い流せるので安心です。

園庭に出てきてすぐ、子どもたちは机の上に出された色とりどりの絵の具を見つけ、おそろおそろ手を伸ばして、絵の具の感触を楽しみます。クリームのようになめらかで伸びの良い絵の具を手のひらや腕に塗りつけながら、子どもたちは触り心地も楽しんでいました。

ります。あつという間に先生たちの上着は、前も背面も小さな手形アトで彩られました。



子どもたちからの絵の具の洗礼は、4月に着任したばかりの渡邊光一園長にも。子どもたちは、最初は遠慮がちに手のひらで触れるだけでしたが、目尻を下げてニコニコとほほ笑んでいる渡邊園長の姿に、どれだけ汚しても怒られることはないのだと安心したのでしょう。徐々に大胆になり、歓声を上げながら、代わる代わる園長のもとに集まりました。「これまでは小学校と幼稚園の校長・園長をしてきましたが、こども園の園長は初めての体験です。いろいろな発見とともに、子どもたちから勉強させてもらっています。子どもたちには、さまざまなことに興味を持って、いろいろチャレンジしてほしいですね。その経験は楽しい思い出とともに少しずつ蓄積されて、やがて自分の糧になってくれると思います」(渡邊園長)

子どもたちを温かく見守る 保護者の方のサポート

ボディーペインティングを楽しんだ後、子どもたちは全身絵の具まみれなので、園庭から部屋に戻る前に



先生も絵の具まみれに 園全体で楽しさを共有

やがて、ビニールシートを広げた園庭のお絵かきエリアで、思い思いの絵の具遊びを始めました。

色付いた自分の両手を観察するように眺める子もいれば、いくつもの色を手で混ぜ合わせる子、らくがき用にひろげた模造紙や積み上げたダンボールなどに手形を並べていく子など、その姿は千差万別です。その様子は、まるでカラフルな泥んこ遊びのようでした。

好きなだけ絵の具にまみれて遊べる開放感が気持ちよかったです。夢中になって遊ぶ子どもたちの顔は、一様にワクワクとした喜びに満ちあふれていました。

この日は、ボディーペインティングの楽しさを園全体で共有しようと、子どもたちはもちろん、先生たちも汚れてもいい服装でスタンバイ。それを見越しているかのように、子どもたちは絵の具を塗った両手を伸ばしながら先生たちに群が

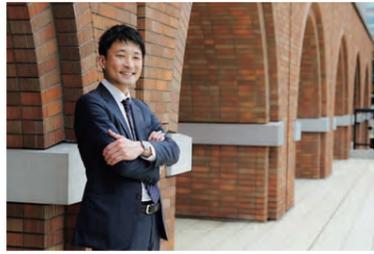
は、服を脱いでシャワーを浴びます。効率良くシャワーと着替えができるように、クラスサポーターの保護者の皆さんが集まってくださいました。「家ではできないことだけに、新鮮な体験を楽しむ子どもたちの表情が見られるのではと、期待して参加しました。お友だちとのびのびと遊んでいる姿を見て、ほほ笑ましい気分になりました」と語りながら、絵の具にまみれた子どもたちを見守る保護者の目は温かいものでした。

グループの入れ替え時には、シャワーの前に並ぶ子どもたちにやさしく声を掛け、体を冷やさないように手早く子どもたちの絵の具を洗い流していく、クラスサポーターの皆さんたちの活躍が光りました。

子どもたちの手で彩られた模造紙やダンボールは使い捨てにせず、次の遊びの機会に活用されます。みんなで協力してできた「作品」を再利用することで、楽しい思い出の記憶も二重三重に塗り重ねられます。

渡邊 光一園長





仏教学
人間科学部 人間科学科
日野 慧運 准教授



「日本人は無宗教」とよく言われます。しかし、今でも日本人の多くは仏教の様式でお葬式を出し、お墓参りをし、あるいは観光で寺院を訪れて建物や仏像の美しさに親しんでいます。古代インドで生まれ、6世紀半ばに日本に伝わったこの宗教がなぜこれほどまでに現代の日本人の生活習慣や美意識に入り込んでいるのか？ サンスクリット語などで書かれた古代の経典を読み解く研究者である一方、僧侶でもある日野准教授の講義を聴けば、その謎の一端が分かるかもしれません。



比較文学(日韓比較文学比較文化)
人間科学部(教養教育)
李 賢峻(イヒョンジュン) 教授



戦前の日本で一世を風靡(ふうび)した朝鮮の舞踊家・崔承喜(チェ・スンヒ)。日本統治下の朝鮮で生まれ、日本でモダンダンスを学んだ崔は、歴史に翻弄(ほんろう)されながらも、時には政治を利用しながら世界中で舞踊公演を行い、自らの芸術を追究しました。激動の時代をたくましく生き抜いた崔を研究対象とし、戦前の日本文化における崔の在り方、戦前戦中の日本外交と崔の関わりについて、日韓比較文学・文化の観点から研究を続ける李教授の研究を紹介します。



国際法学
法学部 法律学科
佐俣 紀仁 准教授



私たちが生きている社会には多種多様なルールがあり、法はその代表例です。国際社会にも国際法と呼ばれる法があり、それは、国のみならず、複数の国が集まって構成される国際組織の活動にも関わります。今、世界には、国際連合やEU、コロナ禍で注目を集めたWHOなど数多くの国際組織が存在し、その活動は、世界中の人々にさまざまな影響を与えています。国際組織の活動を規律する国際組織法に関する課題や議論を丁寧に読み解き、それが未来にどのような影響を与えるかを展望する佐俣准教授の研究を紹介します。

『学問の地平から』教員が語る、研究の最前線

本学の教員は、教育者であると同時に、第一線で活躍する研究者でもあります。本企画では、多彩な教員陣へのインタビューをもとに、最新の研究と各分野の魅力を紹介していきます。



社会福祉学
人間科学部 社会福祉学科
柳 姫希(ユジョンヒ) 助教



社会的マイノリティーに対する人権問題は、世界各国が抱える社会課題です。さまざまなマイノリティーが当事者として運動を担い、社会に向かって声を上げていますが、それは簡単なことではありません。差別が激しい韓国におけるセクシュアル・マイノリティー運動に焦点を当て、多様な属性を持つ当事者たちが抱える生活課題の社会的支援に向けた研究を進める柳助教の研究を紹介します。



経済学(産業組織論)
経済学部 経済学科
新倉 博明 准教授



インターネットやスマートフォンの普及により、私たちの生活はそれまでと大きく様変わりしました。情報通信技術の発展は、生活のみならず、ほかの産業にも大小さまざまな影響を与えています。情報通信が生み出す変化に対して、企業、産業、市場を研究対象とする産業組織論の立場から実証的手法で理解を深めている新倉准教授の研究を紹介します。



創作・文学
文学部 日本文学文化学科
町田 康 特任教授



日々ネットの世界ではさまざまな言葉が飛び交い、SNSの台頭で言葉の持つ力は正負あわせこれまでとは異なる様相を呈しています。そんな中、人々を引きつける文学の言葉とはどのようなものなのでしょうか。日本のパンク勃興期にパンク歌手としてデビューし、その後、作家として唯一無二の表現を続ける町田特任教授に、ジャンルを横断する活動でつかんだ創作の極意を聞きました。



武蔵野大学附属慈光保育園

にじいろ通信

子ども達の「今」を大切に輝く未来



武蔵野大学 学校法人武蔵野大学創立100周年 記念碑 除幕式を開催しました

学校法人武蔵野大学の創立100周年を記念して、発祥の地である「築地本願寺」に記念碑を設置しました。7月10日に築地本願寺で『学校法人武蔵野大学創立100周年記念碑 除幕式』を開催し、招待された関係者が参加しました。

石材、形状、彫り方に至るまで、「1000年先まで美しく保たれるように」との願いを込めて制作されたこの記念石碑は、築地本願寺の正門をくぐった右手に設置されています。お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。





建築デザイン学科の学生が
埼玉県産のマンゴー
「さいたまマンゴー」の
直売所をデザインしました

工学部建築デザイン学科の太田裕通講師と学生18名(4年生3名,3年生3名,2年生12名)のプロジェクト「あわいdeカタチ」で、埼玉県入間郡毛呂山町のマンゴー農家「さいたまマンゴー」の直売所をデザインしました。4月の現地視察から、設計、制作を学生主体で進め、7月23日に納品と設置を行いました。



日本初のアントレプレナーシップ学部と
世界初のウェルビーイング学部、
現代社会の課題解決に挑む学生たちを
紹介する新ラジオ番組がスタート

アントレプレナーシップ学部とウェルビーイング学部は、渋谷のラジオとの合同企画により、ラジオ番組「武蔵野大学WEラジオ! ファンタスティック革命」の放送を開始しました。番組名の「WE」は、Well-being(ウェルビーイング)のWと、Entrepreneurship(アントレプレナーシップ)のE、各学部の頭文字からとったもので、2つの学部が共同で企画・制作を行っています。



グローバル学部
日本語コミュニケーション学科
神吉宇一ゼミの4年生が
日本語政策学会第26回研究大会で
研究発表しました

グローバル学部日本語コミュニケーション学科の神吉宇一ゼミの4年生が6月8日,9日に京都大学で開催された日本語政策学会第26回研究大会のWork in Progress (WiP)セッションで研究発表しました。WiPセッションは、学術的な成果や貢献はまだ十分に検討できていないけれど、現在取り組んでいることを発表できる場として開かれています。今回は4つのプロジェクトについて、2つのチームに分かれて発表しました。



Aidemy(アイデミー)
「Apple Vision Pro」
無料体験会に参加しました

Aidemy本社で開催された「Apple Vision Pro体験会」にAI副専攻1期生の矢澤勇樹さん,2期生の牧山詞音さんと副専攻関係教員が参加しました。体験会では、Aidemy社員の方からデバイスの特徴についての説明を受けながら、参加者全員が順番にデバイスを装着してアプリを体験することで、先端技術の今後のデジタル教育への応用や研究利用についての可能性を感じられました。



グローバルコミュニケーション学科
2年生がアメリカへ出発しました!

グローバル学部グローバルコミュニケーション学科には、2年次前期に全員がアメリカへ留学する「全員留学」プログラムがあります。2024年度は2年生105名が3月にアメリカへ出発しました。8月中旬までの約5か月間、アメリカの大学に設置された全米最大英語教育機関「ELSLanguage Centers」で7グループに分かれて英語研修に参加します。西海岸・東海岸、都市部・郊外など、バリエーション豊かな留学先を用意しています。



データサイエンス学部 岩田洋夫教授が
IEEE VR 2024にて
「Lifetime Achievement Award」を
受賞しました

データサイエンス学部の岩田洋夫教授がTHE 31ST IEEE CONFERENCE ON VIRTUAL REALITY AND 3D USER INTERFACES(以下、IEEE VR 2024)にて、「2024 IEEE VGTC VIRTUAL REALITY AWARDS, Lifetime Achievement Award」を受賞しました。IEEE(Institute of Electrical and Electronics Engineers)は、電子・情報分野における世界で最も権威ある学会です。



日本文学文化学科の学生と
田畑書店が共同制作した
「ポケットアンソロジー」の
作品リフィルを発売

9月25日、文学部日本文学文化学科の学生10名と田畑書店が共同で制作した「ポケットアンソロジー」の作品リフィルを発売。「ポケットアンソロジー」は田畑書店から販売され、好みの作品リフィル(短編小説)を集めてブックジャケットにとじると自分だけのアンソロジーを作れます。今回はその作品リフィルを「日本文学文化研究調査実習」の授業で制作しました。14作品を制作し、学生は作品の選定、校訂、校正、あらすじの執筆などを行いました。



副専攻
(AI活用エキスパートコース)
2期生の成果発表会・修了式を
開催しました

9月9日に有明キャンパス5号館で副専攻(AI活用エキスパートコース)2期生の成果発表会と修了式を開催しました。データサイエンス学部の所属教員たちによって設計されたこのコースは文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(応用基礎レベル)」に認定されており、このたび全科目の履修を終えた75名の2期生が、自身の考案した人工知能実践プロジェクトについて、フラッシュトークとポスター発表を行いました。



幼児教育学科の幼児教育プロジェクトが
一般財団法人三菱みらい育成財団の
「21世紀型 教養教育プログラム」に
採択されました

教育学部幼児教育学科では学年横断型(2~4年生)の課題探求型PBL授業「幼児教育プロジェクト」を行っています。本科目は通年の課題探求型PBL授業であり、2023年度には田植え・稲刈りなどの自然体験、宿泊研修(古民家)、竹林整備体験、附属幼稚園の園児との自然体験・造形活動(藍の栽培と藍染め)、陶芸、近隣公園(MUFG PARK)での親子向けイベントの企画開催などを行いました。



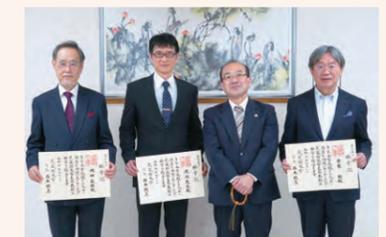
「選挙特殊研究」で選挙事務を体験した
政治学科の学生の意見が
衆院補選投票日に
朝日新聞で紹介されました

法学部政治学科では、「選挙特殊研究」の授業を行っています。2023年度は、一條義治教授と山崎新専任講師を担当教員として後期から授業を開講し、12月に実施された区長の引責辞任に伴う江東区長選挙では、学生14名が開票所などの選挙事務を体験しました。また、朝日新聞東京本社から参加学生への取材依頼があり、学生の意見が4月28日の衆院補選投票日の同紙で紹介されました。



創立100周年を祝う
令和6年度「同慶節」の
式典を行いました

5月21日、浄土真宗の宗祖親鸞聖人のご生誕と本法人の創立記念日を同時にお祝いする「同慶節」の式典を、武蔵野キャンパス第一体育館で開催しました。創立100周年の節目となる今回の式典には、武蔵野大学中学校・高等学校の中学3年生と高校2年生および中高各クラスのクラス委員ならびに本法人の教職員が式典に参加し、その他の生徒は各教室からオンラインで参加しました。



令和6年度
名誉教授称号授与式を
執り行いました

4月24日、武蔵野キャンパスで令和6年度名誉教授称号授与式を執り行いました。関係者立ち会いのもと西本照真学長より称号が授与されました。授与式後には懇親会が開かれ、和やかな雰囲気の中は終了しました。



学校法人武蔵野大学 創立100周年記念募金への寄付贈呈式



前列左より佐野副会長、工藤会長、田中副会長。後列左より横山事務局長、山崎経営企画担当常務理事、西本学長、長野理事長、落合大学経営企画担当常務理事、中村中等経営担当常務理事



工藤会長から長野理事長へ目録贈呈

2024年7月4日、武蔵野大学有明キャンパスにおいて、学校法人武蔵野大学創立100周年記念募金へ5000万円の寄付贈呈式が開催されました。この寄付は、武蔵野大学後援会からのご厚志を受け、学生・生徒・園児の教育設備の充実を図ることを目的としています。

贈呈式には、後援会から工藤英生会長、佐野幸雄副会長、田中清進副会長、本法人からは長野了法理事長、西本照真学長、山崎秀保経営企画担当常務理事、落合恒大学経営担当常務理事、中村好孝中等経営担当常務理事、横山尚佳事務局長が列席しました。

工藤会長は寄付者を代表して、「学校法人武蔵野大学100周年、誠にありがとうございます。この寄付は小嶋前会長の時から積み立てを始めたものです。本法人の発展と子ども



長野理事長より受贈者代表として御礼

たちの教育環境充実のために贈呈させていただきます」との挨拶とともに、寄付目録を長野理事長にお渡ししました。

続いて、長野理事長が感謝状を工藤会長に贈呈し、「後援会の皆さまのご支援に深く感謝いたします。100周年記念募金は教育研究の発展に大きな貢献となります」と感謝の意を述べました。長野理事長はさらに、「創立100周年を契機に長期計画の基盤として再構築したグラウンドデザインに基づき、『豊かで、生き生きとした学びの実現』をさせることが本法人の最重要課題」とし、学祖の高橋順次郎先生が示した『仏教に基づく人格向上』という建学の精神を根底に据え、充実した教育実践を目指す方針を示しました。

贈呈式は終始和やかな雰囲気の中で進行し、最後に記念撮影が行われました。

建学の精神

題字
廣瀬 舟雲
教育学部
廣瀬 裕之 教授

お朝拝があるということ

武蔵野大学中学校・高等学校

羽田慶仁先生



当番の生徒が導師となる毎朝の「朝拝」

武蔵野大学中学校・高等学校では、毎朝「朝拝」を行います。通常は各ホームルーム教室にて実施しますが、学年ごとに週に一度は、雪頂講堂にて「講堂朝拝」として実施します。

雪頂講堂での朝拝では、ご本尊を荘厳（しょうこん）し、全生徒で「三帰依文」を唱えます。

ホームルーム教室での朝拝でも、当番の生徒が導師となり、クラス全員で唱えます。

この三帰依文という偈文は、仏教で大切にしている「三宝」への帰依を表明するものです。

三宝とは、「仏教において最も重要とされる仏教の教主である（仏）（ブツダ）」と、「その教え（法）（ダルマ）」と、「それを奉ずる人々の集団（僧）（サンガ）」の三つを宝にたとえたもの（『岩波仏教辞典 第二版』）です。

一国の王子として生まれながらも、生老

「三帰依文」が教えてくれること

朝拝で唱和する「三帰依文」は、「人身受け難し」という言葉からはじまります。現代の言葉で言えば、「人として生まれるということは当たり前ではない」という意味になるでしょう。

私たちは今、命ある人間として日々を過ごしています。しかしよくよく考えると、いくつもの奇跡といえるようなことが連続した結果として、今の私たちがここにいるのではないのでしょうか。その中で出会う人々も、見たり聞いたりすることもすべて、当たり前なことではないはずです。

一つ一つが、本当に尊いご縁によって私たちのもとに届いています。私たちにとって本当の幸せとは何か、大切にすべきことは何か、三帰依文は教えてくれる気がします。



雪頂講堂で行われる「講堂朝拝」

病死という避けられない苦しみに気づき、厳しい修行や長い間の思惟の末に悟りを開いたブツダ自身も、そのブツダが説き、時代や国境を越えて広がり続けている仏法も、その教えに出会うことのできたすべての人々も、いずれか一つでも欠けることがあれば、仏教の教えが今日まで残るといえることはありません。

仏法が示すとおり、この世は諸行無常、常に移ろいゆくものです。明日のことすら予想がつかないほどに、日々多くのことが目まぐるしく変化しています。しかし、いくら時代が変化しようとも、われわれのいのちの限りがあることも、煩惱から離れることのできない存在であることも変わることはないでしょう。そして同時に、真理の教えである仏法は、決して変わることもなく常に私たちの歩むべき道を照らしてくれます。今から100年前、仏教精神を根幹とし

た人格形成を理想に掲げ、学祖・高橋順次郎博士は本学の前身である武蔵野女子学院を創設されました。

建学以来、長い歩みの中で多くの人材を輩出し続け、現在ではこども園、幼稚園、中学校・高等学校、大学から成る総合的な学びの場となっています。その成長のほどは、高橋先生が思い描かれた以上の姿といえましょう。この100年の間、仏法を大切にしている気持ちは変わらずに、絶やすことなく受け継がれています。

中学校・高等学校では毎日、幼稚園では毎週朝拝を執り行います。また、大学でも定期的に大学礼拝が行われています。本学に関わるすべての人は、高橋先生が大切にされた仏法を味わい、学ぶ仲間（サンガ）といえるでしょう。このありがたいご縁に感謝をしつつ、日々を過ごしていきたいものです。

保護者の皆さまへ

● 後援会の活動について

去る5月の後援会定期総会を経て、令和6年度の後援会活動がスタートしました。昨年度に続き、学校法人武蔵野大学後援会の会長を務めることになりました工藤英生と申します。後援会会長として、緊張感を持って活動していきたいと思えます。

学校法人武蔵野大学は、今年創立100周年を迎えました。創立100周年記念事業プロジェクトの一つとして「スマートインテリジェンスキャンパス」を第4のキャンパスとして開設しました。これは、オンライン上で参加できるキャンパスです。これから100年の学校法人武蔵野大学の発展、「響き合って、未来へ。」の実現に寄与することを目指すものです。

その他にも、武蔵野女子学院発祥の地である築地本願寺の境内に記念碑を建立し、7月10日に除幕式が行われました。築地本願寺にお立ち寄りの際は、ぜひご覧ください。

後援会としては、創立100周年記念基金、教育施設設備充実募金として、会費から積み立てた5000万円を学校法人に寄付いたしました。後援会の主な活動に、毎年開催しております教養講座があります。今

年度は、新設されましたウェルビーイング学部長の前野隆司先生に「幸せについての学問 ウェルビーイング学とは!?」についてご講演をいただき、243名の方が来場されました。12月には、日本の古典文学について、ご講演をいただく予定です。

その他には、保護者面談会などの諸活動、学生・生徒の課外活動への助成や、教育環境整備、さらには、家計が急変した世帯への奨学金給付など、さまざまな活動をしております。このような活動を通して、学生、生徒、園児をバックアップし、応援してまいります。

保護者の皆さまからお預かりする後援会費をもとに、子どもたちの学びが良きものとなるさまざまな取り組みを通じて、保護者の皆さまとともに、学校を盛り上げていきたいと考えております。保護者の皆さまには、今後も後援会活動へのお力添えの程よろしくお願ひ申し上げます。



学校法人武蔵野大学
後援会 会長
工藤 英生

● 副会長就任の挨拶

今年度より、学校法人武蔵野大学後援会の副会長に就任いたしました、佐野幸雄と申します。

創立100周年を迎えたこの節目の年に、副会長という重要な役割を仰せつかり、身の引き締まる思いでございませう。重責を果たすために全力で取り組む所存です。

学校法人武蔵野大学がこれまでの100年間で積み重ねてきた進化と発展を次の100年へとつなげ、さらなる飛躍を遂げるために、



学校法人武蔵野大学
後援会 副会長
佐野 幸雄

● 副会長就任の挨拶

今年度より、武蔵野大学後援会副会長を拝命いたしました田中清進と申します。

令和2年4月に娘が武蔵野大学高等学校に入学した時より本学にお世話になっており、早いもので5年目となりますが、創立100周年という大きな節目を迎える今年度、僭越ながら後援会副会長に就任させていただくというご縁をいただきました。

重責ではございますが、後援会の一助となりますよう尽力してま



学校法人武蔵野大学
後援会 副会長
田中 清進

私も一助となるべく努力いたします。学生と保護者の皆さまのため、誠心誠意を持って後援会活動に尽力してまいりますので、今後ともご支援とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

いりたいと思っておりますので、ご指導、ご協力のほど、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

末筆ながら、本学の益々のご発展と皆さまのご健勝を念じ申し上げます。就任のご挨拶とさせていただきます。

令和6年度後援会定期総会は、インターネットと郵送による総会とさせていただきます。総会資料は、ご自由に閲覧していただけるよう、後援会ホームページに掲載しました。そしてご回答いただいた結果、議題についてご承認をいただきました。

令和6年度
定期総会を開催しました

令和6年度 大学説明会・保護者面談会

令和6年度も後援会ホームページに大学説明会・保護者面談会サイトを開設しました。

各学科の動画や資料を武蔵野キャンパス対象学科は9月12日、有明キャンパス対象学科は10月17日に公開いたしました。

また、10月12日に武蔵野キャンパスで行われました大学説明会の様子を撮影した動画を掲載しております。後援会会長挨拶、西本学長による大学説明、教務部長、学生部長、キャリア開発部長による各説明をご視聴いただけます。

大学説明会のご案内は全保護者へ、保護者面談会につきましては面談対象学年の保護者の方へ、予約開始時期に合わせて、案内を郵送いたしました。

武蔵野キャンパスでの面談は10月12日に無事実施され、有明キャンパスでの面談は11月16日・17日に実施されます。

各学科の説明資料につきましては3月31日までご確認ください。またご覧になっていない方は、下記のQRコードよりアクセスしていただき、ぜひご視聴ください。



第91回教養講座 令和6年7月20日(土)
『幸せについての学問
ウェルビーイング学とは!?』

講師：前野 隆司（武蔵野大学ウェルビーイング学部長）



7月20日、武蔵野キャンパス雪頂講堂にて、本学ウェルビーイング学部長であり、慶應義塾大学大学院の教員も兼ねる前野隆司教授を迎え、第91回教養講座「幸せについての学問 ウェルビーイング学とは!?」を開催しました。

36度近い猛暑の中、大学近隣の方を中心に240名以上の方が聴講に訪れました。

講演の前半ではウェルビーイングは幸せと密接に関係しているものの、より広い意味を持ち、一時的な感情であるハピネスと同視されがちだが、実際には長期的な満足感や充実感を指し、長期的な幸福感に加えて、身体

的、精神的、社会的な健康全体を含む概念であると語られました。その実践方法を「幸せの4つの因子」として「やってみよう」「ありがとう」「なんとかなる」「ありのままに」を紹介しました。

これらを少しずつ実践することで、個人だけでなく社会全体の幸福度が向上すると述べ、健康管理と同様に、毎日少しずつ「幸せ」を意識して行動することが大切だと述べました。

最後に、本学ウェルビーイング学部についても言及があり、AI時代における新しい教育モデルとして、知識の詰め込みではなく、人間らしさや感性を育てることに重点を置いており、これにより未来の社会で重要な役割を果たす人材を育成し、世界の幸福に貢献することを目指していることと述べました。

当日の講演は左記QRコードより視聴できますので、ぜひご覧ください。



質疑に答える前野教授

令和7年3月31日まで
視聴できます。



第92回教養講座

令和6年12月22日(日) 武蔵野キャンパス雪頂講堂

『夫婦愛の文学史(抄)
—万葉から源氏へ—』

講師：藤原 克己（紫式部学会会長）



『源氏物語』第二部では一人の男が二人以上の女性を同時に妻として大切に愛することはできない、ということを描いています。そのような物語世界が生まれるまでの『万葉集』以来の文学史を考察します。

※令和7年1月にオンデマンド配信を予定

後援会ホームページ <https://www.musashino-u.ac.jp/kouenkai/>

随時更新しておりますので
ご確認ください。

